

平成30年10月09日

野々市市議会議長 早川 彰一 様

(報告者)

会派名 (又は) 市政議員会
 代表者 (議員名) 土田 友雄



政務活動報告書

下記のとおり政務活動(調査研究、研修、~~要望・陳情~~)を実施したので、報告します。

期 間	平成30年10月3日から 平成30年10月4日まで
視察、研修、要望・ 陳情の場所	平成30年度砂防施設等合同現場研修会 長野県姫川本川 (H8 蒲原沢土石流災害現場) 金山沢 (稗田山崩壊跡) 浦川 (浦川橋・浦川スーパー暗渠砂防堰堤) 白馬大橋 (松川流路工・白馬三山) 平川 (源太郎砂防堰堤) 横沢砂防堰堤 (白馬村氾濫域) ほか
参加者氏名	土田友雄・杉林 敏・宮前一夫・安原 透
目 的 (調査・視察事項)	砂防の現場合同研修会として、災害ボランティア議連のメンバーとともに実施。平成8年に発生した大規模災害の蒲原沢土石流の災害現場視察及び浦川のスーパー砂防堰堤および源太郎砂防堰堤の視察研修などの実施。 ※参加団体 全国災害ボランティア議員連盟石川支部 (杉林・宮前・安原) 石川縣市町議会砂防事業促進関連業研究会 (土田) 石川県砂防事業促進関連業研究会

調査・視察概要

(目的、内容、結果、所感等について記入)

姫川流域では、明治時代より稗田山の山体崩壊などを当時は放置したままであったが、直轄砂防事業が姫川流域で開始されたのは昭和 37 年。松川・平川と砂防堰堤の工事に着手、その後昭和 39 年に浦川、45 年に大所川、54 年に小滝川、63 年に根知川を直轄砂防に編入。

今回はその姫川地区の様々な事業並びに崩落現場を視察してきた。

このエリアはフォッサマグナと大断層が交錯するエリアで、複雑な地質地形をなし、それが土砂災害発生の大きな要因となっている。

最初に伺った「葛葉山腹工」では、平成 7 年 7 月の梅雨豪雨で小谷村を中心に大災害を引き起こした、洪水・斜面崩壊で 12 万㎡の土砂が流出、10m も河床が上昇した。平成 16 年度より工事着手。

次に 1502 年の越後南西部地震で起きた、姫川・真那板山の大崩壊では、堰止湖が出現。また蒲原沢土石流災害では、工事中の砂防堰堤現場で 14 名が流され遺体で発見された。この災害をきっかけに工事中の安全確保について各種通達が行われ、周知・徹底が図られた。

稗田山大崩壊では、下流域の来馬集落では現在までに約 20m も河床が上昇した。また、下流の浦川では「スーパー暗渠砂防堰堤」が構築され、景観への配慮と、土砂流出の調整を図る構造であった。金山沢第 4 号砂防堰堤工事では、工事エリアが土石流の到達エリアでもあり、絶えず危険をはらんでいるが、工事中の作業員の安全確保のため、無線操縦による重機の投入により、無人エリアでの作業を有人エリアから人がラジコン操作で行い、途中の橋梁（瀬戸大橋施工時の施工試験用のミニチュア橋梁と聞いた）上には絶えず監視員が河川の監視を行い無線で連絡を行っていた。

なお、稗田山崩れの犠牲者慰霊碑では、横に幸田文の「歲月茫茫」の文学碑も建てられ、当時はなすすべもなかった悲哀を感じた（現在も、そのまま埋まっている。14 戸被災、3 戸埋没。22 名がすべて細野さん、旅行者が 1 人）。

白馬村の、松川と平川は、扇状地をなして姫川に流れ込んでいる。自然災害と隣り合わせの観光地は、上流には土石流を防ぐ砂防堰堤群、中下流域には床固工、流路工による穏やかな流れがつけられ、親水域となっている。また近年の砂防事業の効果により土地利用も広く行われ、出水エリアを少しでも少なくすることに努めてきている。

平川の「平川源太郎堰堤」は昭和 7 年着手の最も古い堰堤で、その流路工の第 1 期完成記念碑には「はじめに砂防ありき」と刻まれている。

考察

野々市市において砂防事業は、直接的には関係はない。しかし、

	<p>手取川上・中流域の様々な事業、七カ用水、白山山系の様々な事業の恩恵を受けて、豊かな水と豊饒な土地に恵まれてきている。昨今の異常気象による出水被害や、山体崩壊などの事象が各地で起きている。決して、本市とて災害被害にあわないはずがない。地震などによる被害も含め、人々の苦勞と歴史をしっかりと見つめ、刻んでおくことの大事さを改めて感じた。</p>
備	考

※記入欄が不足する場合は、欄を広げる等適宜調整してください。